

2014

Vol.17

2月10日

花水木

ハナミズキ

Kawaguchi Municipal
Medical Center



特集

医療安全への取り組み

—医療の質・安全の向上に向けて—

p 2 ~ p 3

目次

- p 4 病院の取り組み: 川口マラソン 救護班派遣について
- p 5 KMMC Report: 排泄(失禁)ケア
- p 5 病院Q&A
- p 6 部署紹介: 画像診断センター
- p 7 KMMC Information:
2013 クリスマスコンサート
- p 7 医師の交代のお知らせ
- p 8 四季の移ろい: 節分…豆まきはお済みですか?
- p 8 ミニギャラリー3ヶ月

川口市立医療センター
イメージキャラクター
「みみたース」



基本理念

市民に信頼され、安全で質の高い医療を提供します

医療安全への取り組み

—医療の質・安全の向上に向けて—

医療安全週間 ～みんなで守る安全～

医療センターでは毎年10月16日を「医療安全の日」として、医療安全に関係する職員向け講演会を開催しています。またその日を含む週から月末までの約2週間を「医療安全週間」と位置づけ、患者の皆様にも知っていただけるよう、さまざまな角度から医療の質・安全への取り組みの紹介を行っています。

医療安全とは本来非常に広い範囲の事柄を含みます。診療において誤りが起きないということは基本ですが、面会の人から入院されている方々に風邪やインフルエンザがうつらないようにすること(冬期の面会制限)も安全確保ですし、床ずれ(褥瘡^{じよくそう})を防止することも安全の一環です。さらに不審者が院内に入り込まないように仕組みを作る(面会証の交付)こともそうです。加えて何かと規制が多く、ご自身の不安も多い入院生活をできるだけ快適に過ごしていただく努力も病院としては行っていかな

ければなりません。それらのためにさまざまな専門のチームが院内では活動しています。これらのチームが日頃の活動の中で患者の皆様、来院される方々にご理解いただきたいことをテーマとして選んで、医療安全週間にパネル展示を行っています。

医療安全週間でのパネル展示は正面入口を入ったところ(再来受付機のあたり)で、行っています。今年度は10月16日から31日まで開催いたしました。内容は下記をご覧ください。これから毎年、いろいろな取り組みをお見せしていきたい、いずれは来院される方々も参加していただけるような催しも考えていきたいと思ひます。

医療安全は病院職員だけで守れるものではありません。患者の皆様、ご家族の方々、来院される全ての人の協力のもと初めて守ることができるのです。ご協力をよろしくお願いいたします。



チーム名	テーマ・概要
安全対策チーム	お名前確認、持参薬をお持ちの方へのお願い、ピクトグラムはいのちを見守るコミュニケーションツール
感染対策チーム	インフルエンザへの対応、各種感染症の年齢分布、ウイルス性疾患の潜伏期間と感染可能期間
褥瘡対策チーム+NST※1	床ずれを予防するためには、必要な栄養素を十分に取ることが大事。どんな食材を使えばとれるかな?
緩和ケアチーム	緩和ケア外来の紹介、患者会の活動状況
CS チーム※2	患者満足度調査の結果報告、メッセージカード紹介

※1：NST（栄養サポートチーム） ※2：CS チーム（顧客満足対応チーム）

医療安全対策チームの取り組み

医療安全対策チームは、各部署の代表からなり、院内の医療安全に関することを行っています。

今年度は、

1. 危険薬誤投与防止
2. 患者への安全教育
3. 5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）ラウンド
4. 事例分析の職場への浸透
5. 救急カート整備
6. 肺血栓塞栓症・深部静脈血栓症予防への取り組み
7. 危険手技の安全な実施のための手順書作成
8. ピクトグラム定着

の8項目について活動をしています。

そのなかでも、患者さんが無事に診療を終えていただくためには、患者さんや家族の方にもご協力をお願いいたします。

1. お名前を名乗ってください

診察・注射・検査・手術・食事の配膳のときなどは、まずご自身のお名前を名乗っていただくことで、患者間違い防止につながります。同姓、同名など間違いやすい状況のなかで無事に診療を終えていただくためには、まず、お名前を名乗っていただくことが重要です。

何回も名乗っていただくこともありますが、
ご協力をお願いします。

2. お薬手帳を提示してください

手術や検査などの診療上、普段飲んでいる薬を中止しなければいけない場合があります。外来受診される時はお薬手帳を、入院される時は、服用中のすべての薬(飲み薬以外にもすべて含む)とその説明書およびお薬手帳をお持ちいただき、医師、看護師または薬剤師にお示しください。

3. ピクトグラムを確認してください

—いのちを見守るコミュニケーションツール—

入院中の情報や注意を絵文字や絵単語で表示しています。患者さんやご家族、すべての職員が情報共有できることを目的に導入しました。成人病棟ではベッド頭側に、小児病棟では床頭台(ベッドサイドロッカー)に表示してあります。ピクトグラムでは、食事や安静度などの情報がひと目でわかるようになっていますのでご確認ください。

医療安全対策チームでは、すべての医療スタッフの教育も含めて患者さんに安全な医療を提供できることを目標に活動をしています。ぜひ、活動の主旨をご理解いただき、ご協力をお願い致します。

病棟ではこのように使用しています。

小児科病棟



一般病棟



ピクトグラムは
いのちを見守る
コミュニケーションツール



川口マラソン 救護班派遣について

救命救急センター看護師長 篠原久美

平成25年12月1日曜日に、川口市制施行80周年第32回川口マラソン大会が、気温6度～8度、快晴の中行われました。

今回は、1991年世界陸上競技選手権大会男子マラソン金メダリストである谷口浩美さんを招待選手として招き、総勢約5,300名の参加でした。

川口市体育協会より、川口市立医療センター、済生会川口総合病院、消防局が川口マラソンの救護の依頼を受けており、調整会議を行い、救命救急センターの看護師が中心に、綿密な計画を立て当日に備えました。

救護班は、本部・救護所・モバイル隊(AEDを持ち、各中継点で自転車が待機する救護)・民間救急同乗があり、医師・各職場看護師・comedical・庶務課・管理課より合計35名の人員協力を得て、済生会川口総合病院、消防局とともに配置しました。



モバイル隊出動

例年、モバイル隊との連絡が取りにくく、昨年度はハンズフリーで連絡が取れるようにイヤホンを用意してもらいましたが、今年はさらに進化させ、GPS機能でモバイル隊がどこに居るかを確認することができ、中継点に到着したかを確認することができました。救護に当たる担当は、川口市出身者でない場合もあり、土地勘



救護所

がないため、道に迷ったときに本部に連絡を取ることができました。

救護所は、去年は重体の患者が出て救急搬送されたため、重症度によりトリアージできるように、赤・黄・緑救護所に分けてゴール付近に配置しました。負傷者は、小学生がゴールに入ってきた時が一番多く、擦り傷等がほとんどでした。脱水症状で救護所に搬送された走者が一人いましたが、点滴処置をするまでの症状ではありませんでした。救護された走者は、合計29名でした。重症者の走者がでなかったことが、何よりでした。



本部内状況

排泄(失禁)ケア

看護部 皮膚・排泄ケア認定看護師 飯塚貴美

人として「食べること」「出すこと」は、生きていく上でとても大切な事です。「出すこと」とは排泄のこと、体の中でいらなくなった老廃物をためて出すことを指します。生きていく上でとても重要な生理機能の一つです。と同時に、とてもプライベートでデリケートなことでもあります。排泄ケアで一番大切にしたいのは出来るだけ「気持ちよく自立した排泄」をサポートすることです。

排泄のトラブルの中で一番多いのは失禁といわれています。失禁とは、「自分の意識に関係なく漏れてしまい、漏れることが衛生的、社会的に問題になること」をいいます。失禁といっても様々な原因によって起こります。原因によって対処方法も異なります。失禁の原因が病気である場合は治療することも必要です。また、トレーニングをしたり、環境を整えたり、食生活の工夫や用具を活用することで解決する場合もあります。排泄用具を選ぶ場合は1) 排泄の状況、2) 失禁状態、3) 日常生活動作を見極めて、本人に適したものを正しく選んで効果的に使用することが大切です。

排泄用具も種類がたくさんあってどれを選択したらよいかわからないという話をよく聞きます。お困りの方はお住まいの地域包括支援センターやおかかりの病院にご相談ください。



病院 Q & A

メッセージボックスに寄せられた皆さまの疑問
およびご意見をもとに Q & A としました。

ご理解・ご協力をお願い致します。

- Q1.** 病院のドアが開くまで外で待機するのは辛い、特に年寄りは大変だと思う。順番で待ってる7時頃から中で待てるように工夫して欲しい、防犯上問題あれば守衛さんに協力してもらえないだろうか。待っているところに椅子を置いてもらえないだろうか。改善して欲しい。

ご不便をおかけして申し訳ございません。ご指摘があったように防犯上の関係で8時前に扉を開けることは難しいです。また多い時は開扉前に40～50名並んでいるため、椅子を置くスペースを確保するのは難しい状況です。季節柄寒い日が続きますので、どうぞ予約時間の少し前に来院してください。

- Q2.** 会計(自動精算機前)に長い列で車イスでは不便です。考えてください。

車椅子をご利用の方には不便な配置や並び方になっています。車椅子の方には、医事課職員が、自動精算機を避け5番窓口で会計していただけるよう誘導しています。午前中はボランティアスタッフもおりますので、必要時に声をかけてください。

画像診断センター

部署紹介



画像診断センターでは、CTやMRIなどの画像診断装置を用いて撮影した画像を放射線専門医が、病変の有無(存在診断)や、良悪性といった性質(質的診断)、そして臓器あるいは身体の中での広がり(進展度診断)などの画像診断を行い報告書を作成しています。

また画像診断技術を応用した治療も行っています。X線透視やCT・超音波などで体内を見ながら皮膚から挿入したカテーテル(柔らかい細い管)や針などを遠隔操作しておこないます。同等の治療効果を得るための侵襲性が、他の方法より少なく、速やかな治療効果が得られるといった特徴があります。

画像診断センターでは次のような検査を行っています。

- **単純撮影**…胸部や腹部、頭部、骨など、あらゆる部位を撮影します。
- **X線透視**…バリウムなど造影剤を用いて消化管などを撮影します。
- **血管撮影**…カテーテルを足の付け根や腕から挿入して、造影剤を注入しながら撮影します。脳動脈瘤に対する治療や心臓冠動脈の狭窄に対する治療等も行われています。
- **乳房撮影**…専用の撮影装置で撮影します。圧迫板で乳房を挟むため、ある程度の痛みを伴います。
- **骨密度測定(骨塩定量)**…2つの異なるエネルギーのX線を用いて骨におけるX線吸収の差を利用して骨密度の測定を行います。

● **CT検査**…X線を用いて撮影したデータをコンピュータ処理して体の断面画像を作成する検査です。当院の装置は多列検出器型装置(マルチスライスCT)と呼ばれるもので、これは、広範囲を高速で高精細に撮影することが可能で、そのデータを利用して多方向の断面画像や3次元画像などさまざまな画像を再構築することができます。

● **MRI検査**…磁気と電波を用いて撮影したデータをコンピュータ処理して体の断面画像を作成する検査です。MRI検査は、X線を使用しないのでX線被ばくは有りませんが、強い磁場にさらされるため、心臓ペースメーカーを装着した方や、手術等で体内に金属がある方は検査を行えない場合があります。

● **R I検査**…目的とする臓器と同じ代謝経路をとる放射性医薬品を患者さんに投与して、放射能の体内分布を測定します。得られたデータを処理することで臓器の形態や機能を評価することが可能になります。

近年、疾患に対する検査方法は、目覚ましい進歩と多様性が見られます。正しい画像診断のためには、知識を持った技師が撮影し、専門医が読影することが重要です。

画像診断センターでは安全かつ最新で価値の高い画像診断を施行し、患者さんのニーズに寄与しています。

2013 クリスマスコンサート

12月20日(金) 午後5時からクリスマスコンサートが正面ホールで開催されました。当日朝から降り続く雨が一時雪に変わりクリスマスムードが高まる中、入院患者の皆さまやご家族の方々、職員など205名の聴衆が集まりました。

コンサートは、恒例となっている女性合唱団「四葉会」の歌唱やピアノ演奏、医療センター職員有志による混声合唱とハンドベルの演奏のほか、今回は新たにテノールの二重唱やファゴットとパーカッションの協演なども行われ、観客席から盛大な拍手が送られていました。

コンサートは約1時間にわたって行われ、最後は「きよしこの夜」を出演者と会場の皆さま全員で合唱して終了しました。



医師の交代のお知らせ

新任



カノウ トシカズ
加納 利和

1月1日付

脳神経外科 医長

精一杯頑張りたいと思います。
よろしくお願いいたします。



オオハシ シンスケ
大橋 伸介

1月1日付

外科 医長

全力投球・一所懸命頑張ります。

退任

五十嵐 崇浩 12月31日付
脳神経外科 医長

馬場 優治 12月31日付
外科

四季の移ろい

節分…豆まきはお済みですか？

2月と言えば節分が思い浮かびますが、皆さんはもう豆まきはお済みでしょうか？私は子供のころから毎年必ず節分の日に豆まきを行っています。時が流れ自分の娘たちとそして今年は孫たちと行いました。家の中にまた豆をチワワたちが喜んで食べるのが例年の光景となっています。また数年前から恵方巻きを食べることも習慣になっています。

節分とは本来、年4回ある季節の分かれ目のことをいっていましたが、日本では立春は1年のはじまりとして、とくに尊ばれたため、次第に節分といえば春の節分のみを指すようになったとのこと。

節分の日の浅草・浅草寺で有名人等が参加する豆まきは以前から有名ですので、皆さんも2月3日のテレビで良くこの光景を見ると思います。ところでこの節分の行事

を寺院で大規模に行ったのは浅草寺が最初で、現在では正午と午後2時頃に、本堂東側に用意された特設舞台から年男による豆まき等

が行われています。浅草寺の豆まきでは、観音さまの前には鬼はいないということから、「鬼は外」とは唱えず、「^{せんしゅうばんぜい}千秋万歳福は内」と発声します。

さて浅草そして浅草寺は以前からも観光の目玉であり雷門をくぐり、250m続く仲見世、五重塔、本堂などどれも素晴らしいのですが、スカイツリーが出来てからさらに脚光を浴びています。隅田川に架かる橋では多くの外国人を含む観光客がスカイツリーにカメラを向けています。豆まきには参加できずとも空気の澄んだ寒い日にスカイツリーを見ながら浅草寺周辺を散策するのもおつなものでしょう。

さらにこれから4月になると寒い日の澄んだ空とはまた違う雰囲気漂い、墨田川周辺の桜が素晴らしくなります。これからは浅草寺・スカイツリー・桜を楽しみにしつつ寒い日を耐えていきたいと思います。(お)



ミニギャラリー3ヶ月

11月は河合悦子さんの「油彩画展」、12月は中村忍さんの「3Dピクチャー展」、1月は齋藤元男さんの「世界遺産写真展Ⅱ」でした。

油彩画展は色を縦、横線を用いて描いた抽象的油彩画で、「線の流れで力強さや、やさしさ、生きる力とかいろいろ想像できました。」という感想が寄せられています。3Dピクチャー展は、三次元の立体的な絵で、不思議な世界を表現してくれました。世界遺産写真展Ⅱは、古代から現代への架け橋となる遺産に遥かなる想いを馳せられる素晴らしい作品でした。

なお、ミニギャラリーの展示内容は医療センターHPでもご覧いただけます。

◆油彩画展 (11月) ◆



◆3Dピクチャー展 (12月) ◆



◆世界遺産写真展Ⅱ (1月) ◆



編集後記

朝晩の冷え込みがきびしくなり、まさしく冬の到来ですね。外は寒々としていますが、心温まる医療センターでの癒しを紹介します。それは、晴れた日に7階・屋上庭園から見える富士山です。雄大で心がほっと洗われますよ。ぜひご鑑賞してみてください。 E

発行責任者 川口市立医療センター 栃木 武一
編集 広報委員会
〒333-0833 川口市西新井宿180
☎048-287-2525(代表)
HP <http://kawaguchi-mmc.org>